

○中村河川レンジャー 平成 27 年度年間活動計画

1. 活動の目的

伏見は豊臣秀吉の宇治川付け替えを契機に大きく発展した町です。対岸の向島には広大なヨシ原が広がり、豊かな生態系をはぐくんでいます。

このような宇治川の魅力や歴史を多くの人に伝え、宇治川と宇治川のヨシ原を地域の財産と位置づけ、もっと身近な存在にしたいと考えています。

このため、河川レンジャーが橋渡し役となって、ヨシをシンボルとして地域に親しまれる宇治川を実現することを活動の目的とします。

2. 活動の目標

Step1 宇治川の魅力をできるだけ多くの人に伝えます。活動参加人数を成果とし、年間目標を1,000名とします。

Step2 地域のヨシを住民と行政が一体となって保全する取り組みを進めます。活動成果は「ヨシ原再生連絡会議」の設立とします。

Step3 「ヨシ原再生連絡会議」が主体となって「ヨシ原再生ミーティング（仮称）」を開催します。

3. 活動の概要

	活動内容	実施時期（任命期間/年次）				
		試行	1期		2期	
		1	2	3	4	5~RA
Step1 地域住民の関心を高める	<p>①小学校出前授業「宇治川を知ろう」 子どもたちに宇治川の歴史・治水・環境（生物、水質等）を伝え、川とともに発展してきた地域への理解を深めていただく。</p> <p>②地域の河川環境に関する啓発活動その1 「宇治川のヨシを知ろう」 ヨシ刈の見学会を開催し、現場でヨシ笛作りを体験し、河川に関心を高める機会とする。</p> <p>③地域の河川環境に関する啓発活動その2 「ツバメの畷入り観察会」 宇治川のヨシ原で観察会を開催し、自然と動植物の生態にふれ、人と自然の共生の大切さを知っていただく。</p> <p>④地域の河川環境に関する啓発活動その3 「宇治川と支流（山科川、高瀬川）の水質調査」</p> <p>⑤隣接学区と連携した防災体験会 「南浜、桃山、向島、向島南学区」</p>		→			
Step2 河川レンジャーと管理者が協働して取り組む	<p>①ヨシ原再生連絡会議（仮称）の設立 地域のヨシを住民と行政が一体となって保全するために「ヨシ原再生連絡会議」を設立する。</p> <p>②ヨシ原ミーティング（仮称）の開催 ヨシ原再生連絡会議が主体となり、ヨシの保全等に関わる団体が一堂に会する研究会を開催し、流域の整備やヨシ原の重要性を訴えた「ヨシ原保全宣言（仮）」をまとめる。</p>		→			
Step3 地域住民から行政へ発信する仕組みを構築	<p>①モニタリングの実施 「ヨシ原再生連絡会議」を母体に、ヨシ原の調査を継続的に実施し、地域住民の意見とともに、情報を広く発信していく。</p>			→		

4. 平成 27 年度活動内容

平成 27 年度の活動一覧

活動分野	活動名	実施時期
河川環境保全を図る活動	地域の河川環境に関する啓発活動・その1 「宇治川のヨシを知ろう」	5～3月
	地域の河川環境に関する啓発活動・その2 「ツバメの埒入り観察会」	8月
	地域の河川環境に関する啓発活動・その3 「宇治川と支流（山科川、高瀬川）の水質調査」	4月～3月
	ヨシ原再生連絡会議（仮称）設立	2月
河川に係る歴史、文化の普及啓発活動	地域の小学校へのお出前授業 「宇治川の歴史、文化、動植物の学習」	5～12月
防災・救援・救難の推進を語る活動	隣接学区と連携した防災体験会 「南浜、桃山、向島、向島南学区」	7月

4. 1 小学校出前授業「宇治川を知ろう」

- (1) 活動目的 …… 出前授業の出先は、京都市立向島小学校です。この地は古くから巨椋池という広大な沼地で一面にヨシが繁り、動植物の宝庫として地域の住民の生活の生業を支えてきた歴史があります。しかし戦前に巨大干拓事業が計画・推進され、今日の向島の姿が見え始めましたが、昭和28年の宇治川の堤防決壊による大水害の後に護岸工事が進み、京都市の干拓地の大規模な開発が行なわれ、巨大住宅団地の開発に伴い昔からの長閑な田園風景が一変し、周辺部の開発が一段と進みましたが、道路などの整備が遅れております。

その為、動植物の生態が様相を変え、野鳥の数が減り魚の種類も激減し、植物の生育できる環境が限られて参りました。

こうした歴史や文化や動植物の変化などを詳しく解かり易く引き継ぎ、全国的に減っているヨシ原とヨシを、伏見の財産として護り育てる思いを伝えたく考えております。

活動実施スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 2 7 年	4月	学校側と相談して年間5回の企画立案	
	5月	第1回の授業	
	6月	第2回の授業	
	7月		
	8月	第3回・校外授業、ツバメの埒入り観察会	
	9月		
	10月	第4回の授業	
	11月		
	12月	第5回の授業	
平成 2 8 年	1月		
	2月		
	3月		

(2) 参加対象者・定員

35人×2クラス=70人 授業回数5回で350人

(3) 実施内容

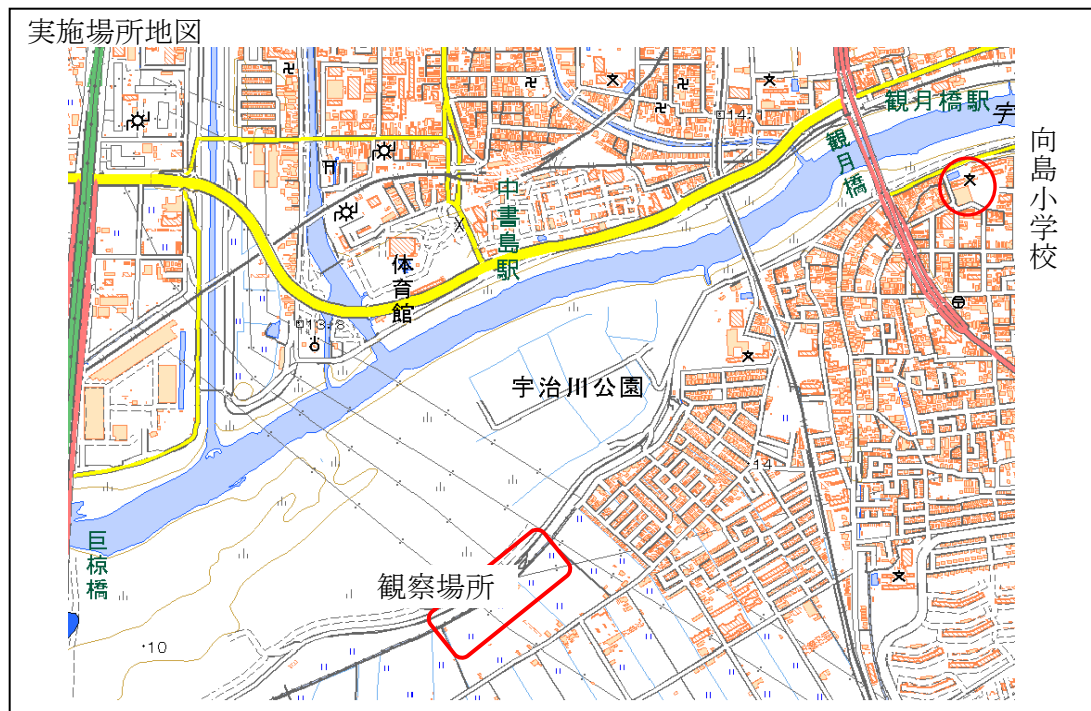
宇治川と向島の歴史・文化・自然環境・野鳥・魚・ヨシ原など、向島の今と昔を解かり易く説明し、自分たちの住んでいる街に関心と愛着が持てるよう進める。

(4) 実施日

年間スケジュールを学校側と相談し、希望に応じて最終決定します。

(5) 実施場所

向島小学校の教室と宇治川の左岸、観月橋の下流1キロのヨシ原の見える堤防上



(6) 安全対策

出前授業は5回ですが、4回は教室で行い、ツバメの埒入り観察会のみ屋外です。只、夕刻17時から19時15分に観察しますので、先導、見守り、後方確認などに十分な注意を致します。幸い追手門学院大学と龍谷大学が共催で参画しますので監視体制は二重に行います。

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

伏見楽舎・追手門学院大学・龍谷大学が共催で参画しますので、35名程の人数が確保できます。それぞれの役割については、今後の検討材料になりなります。

(8) 広報・募集方法

出前授業は募集の必要はありませんが、ツバメの埒入り観察会の祭は、京都市教育委員会が発行し、全小学生と中学生に配布する「GO GO土曜塾」というイベントの周知用の冊子を活用する他、自前のチラシとポスターを作り、伏見区内37校に配布します。

(9) 必要支援内容

今回の内容に、向島と宇治川の歴史が含まれており、その専任の講師を依頼する事を考えており、その講師料をご支援頂ければ幸いです。

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

大学、伏見楽舎、区役所など共催団体との調整や、講師をしながら全体のコーディネーター或いは安全対策が役割と考えております。

(11) 昨年度の活動を踏まえての改善点

出前授業は初めての事ですから学校と相談しながら進めますが、ツバメの埒入り観察会は観察前のオリエンテーションは学校の教室で行うことで、パワーポイントやスライドなどが使用できる上、天候の場合でも対応が出来ます。

(12) 活動を行う上での課題等

出前授業も大学との共催も初めての事で、調整に工夫と配慮が必要になります。

(13) その他

4. 2. 地域の河川環境に関する啓発活動その1「宇治川のヨシを知ろう」

- (1) **活動目的**・・・全国的にヨシ原が減少し、川の水の浄化作用が少なくなり、そこに住んでいた動植物の数が減り、環境変化が進む中で、ヨシを生業にしてこられた地元の人々の生活の姿が代わりました。400年以前に明智光秀は、巨椋池に繁茂していたヨシの権利を軍資金として巨額の富を得ていた時代から、ヨシ焼きをすることで茶室や文化財補修の良質のヨシを確保してきた一方で、茶畑の覆いや簾などに使われ、三栖の炬火祭のヨシだけで作られている伝統行事も現存している伏見の町に、ヨシに関心と興味を持つ人が増える事を期待し、啓発と周知活動に取り組みたく思います。

活動実施スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 27 年	4月		
	5月	宇治川のヨシ原の推移と保全の講座	
	6月		
	7月	ヨシだけで作る松明の制作風景の見学会	
	8月	ヨシ灯り展の開催準備	近江八幡市と共催
	9月		
	10月	三栖の炬火祭の巡行の見学	
	11月		
	12月	宇治川のヨシ刈現場の見学会	
平成 28 年	1月		
	2月		
	3月	宇治川のヨシ焼き風景の見学会	

(2) 参加対象者・定員

広く一般市民でヨシに関心のある方を対象として行う。

5月の講座は50人、8月は20人、7月、12月、3月は30人程度を予定。

(3) 実施内容

ヨシ灯り展の企画会議は、何らかの形でヨシに関わっておられる地域と関係者を一堂に会し、ステップ2に向けての準備として開催する。

その他は、ヨシ刈りやヨシ焼きの記録ビデオを通して現状を認識頂き、現場に足を運んで実際に目に触れて頂くことでより深くヨシに関心を寄せて頂く。

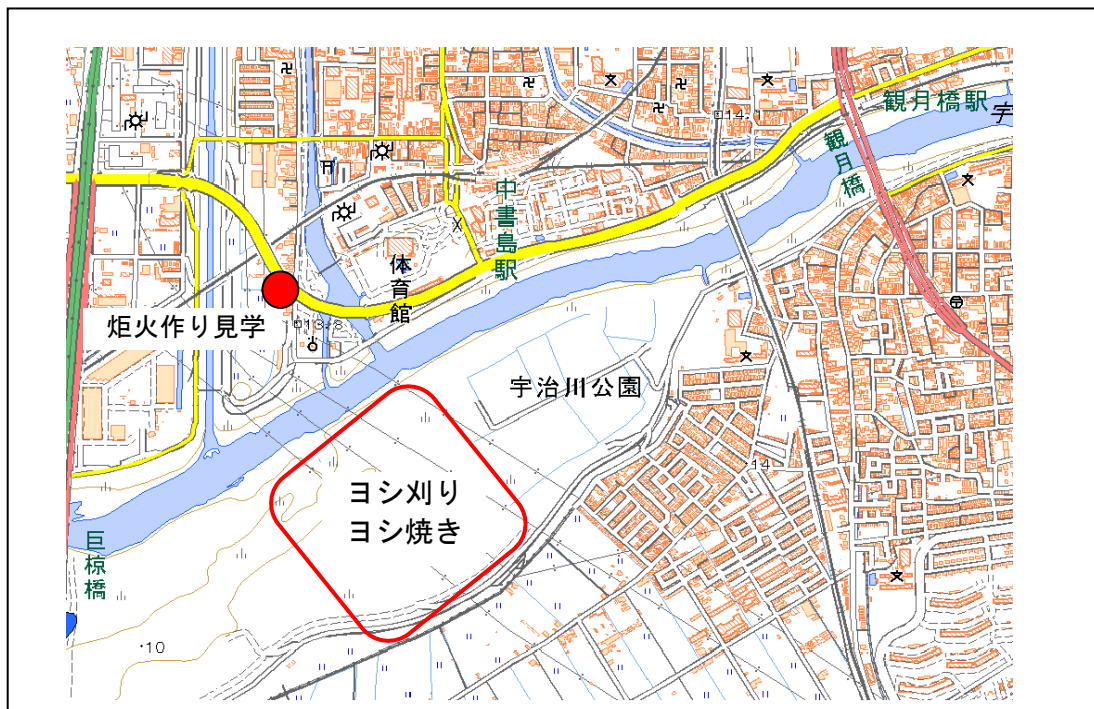
(4) 実施日

一覧表に記載の通り。

(5) 実施場所

講座と企画会議は、伏見区役所又は上流域流域センターの会議室を予定。

炬火の制作現場は、上流域のすぐそばの高架下、ヨシ刈りとヨシ焼きは宇治川の観月橋の下流1キロの左岸です。



(6) 安全対策

何れのケースも現場に下りる事は無く、堤防上から観察しますので、特段の危険はありません。ヨシ焼きは早朝に行いますので、現地への集合に各自留意頂きたい。

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

常に十分な要員を確保しており、誘導と監視が主たる任務です。

(8) 広報・募集方法

伏見区役所の広報の活用、京都新聞の記事扱いの手配、伏見楽舎の町内会へのチラシ配布を計画します。

(9) 必要支援内容

特段の高額費用は発生しませんが、企画会議は遠近各地から参集されるので、多少の経費が見込まれます。

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

講座や企画会議は、呼び掛け人としてリードする立場にあり、案内文から出欠確認、議事録の作成と発送など、事務局の役割を自覚して取り組みます。

(11) 昨年度の活動を踏まえての改善点

どれも新規事業ですので、細心の注意を払って準備と確認をします。

(12) 活動を行う上での課題等

現時点で心配している事案はありません。

(13) その他

4. 3. 地域の河川環境に関する啓発活動その2「ツバメの帰入り観察会」

(1) 活動目的・全国的にヨシ原が少なくなる一方で、向島地区では農地が激減し、更に建築様式の変化が進み、ツバメの生活環境が悪化する中で個体数も年々減少の一途を辿って来ました。40年ほど前までは5万羽が宇治川のヨシ原を埒にしていたのですが、近年は半減したと言われております。早朝に生駒山方面と比良山に向けて飛び立ったツバメの集団が、日没寸前に一斉にヨシ原に帰って来る様子は壮観で、この風景には誰もが感動致します。この様子を親子で観察頂き「親子の絆と地域の連帯」を強めて頂き、ヨシを知る切っ掛けになればと考え企画致しました。

活動実施スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 27 年	4月		
	5月		
	6月		
	7月		
	8月	1日(土) 17時から19時20分頃	
	9月		
	10月		
	11月		
	12月		
平成 28 年	1月		
	2月		
	3月		

(2) 参加対象者・定員

小学生の親子150人と、スタッフ35人

(3) 実施内容

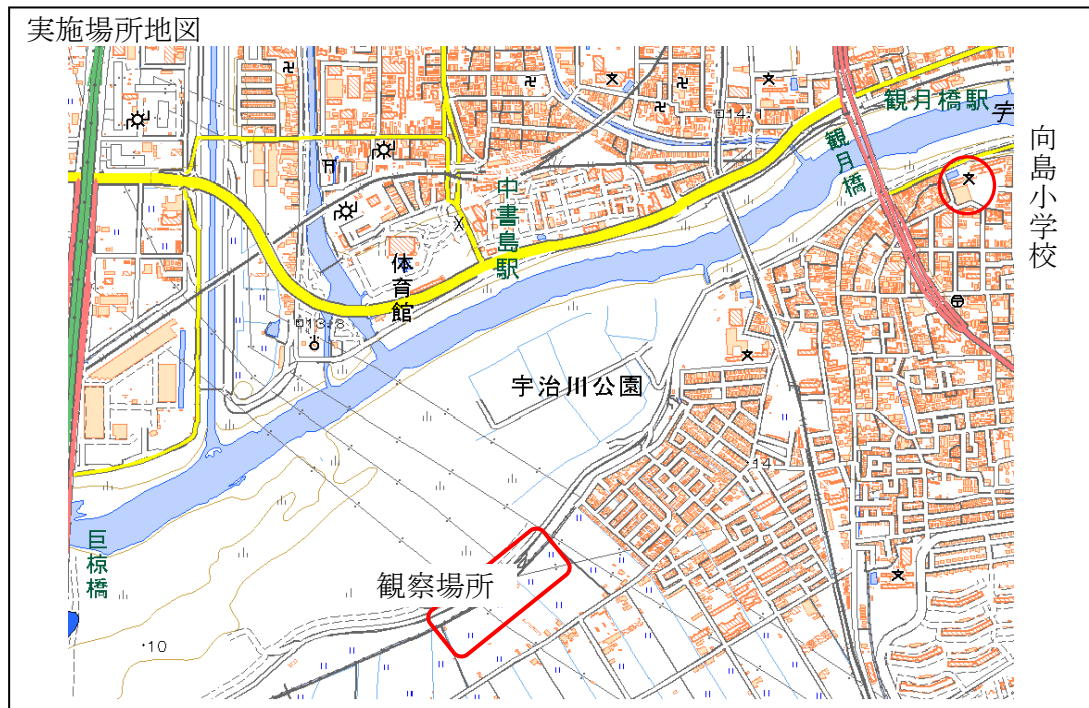
宇治川の左岸、観月橋の下流1キロメートルの堤防上で、ツバメの帰巢の様子を観察。17時に向島小学校に集合し、オリエンテーションを行った後、観察現場に誘導。

(4) 実施日

平成27年8月1日(土) 17時から19時20分

(5) 実施場所

向島小学校に集合。オリエンテーションの後、宇治川のヨシ原に移動



(6) 安全対策

向島小学校から観察現場まで約1500メートルを、宇治川左岸を徒歩で誘導しますが、特段の危険箇所はありません。ただ帰りは日没後で日が暮れていますので誘導員が張り付く必要があります。この点の事前の打ち合わせが大切だと考えております。

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

今年は、追手門学院大学と龍谷大学と伏見楽舎の共催ですので、要員数は充分です。

(8) 広報・募集方法

京都市教育委員会が発行される「GO GO 土曜塾」は、京都市の小学生と中学生全員に配布されるイベントの案内冊子で、その周知度は絶大でこれを活用する他、伏見楽舎が伏見区内37小学校にチラシとポスターで広報致します。

(9) 必要支援内容

高額のコストはかかりませんが、チラシとポスターの印刷費を助成下されれば幸いです。

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

各団体との調整、教室の借入手配、出発前のオリエンテーション、安全対策などをメイン密に準備致します。

(11) 昨年度の活動を踏まえての改善点

出発時に時雨があり、現場で説明をするのに集中を欠いた事から、集合と説明会を室内で開催する様改めました。

(12) 活動を行う上での課題等

特段ありません。

(13) その他

4. 4. 地域の河川環境に関する啓発活動その3 「宇治川と支流（山科川、高瀬川）の水質調査」

(1) 活動目的・・・琵琶湖は京阪神の水瓶と言われ、我々はその恩恵によくしていますが、近年琵琶湖に赤潮だの青潮だのと、水質の悪化が話題になります。しかし、そこから流れ出る宇治川の水質が取り上げられる事はありません。

そこで市民が環境に関心を持ち親しみを感じ、自らが川を綺麗にする気持ちと呼び起こすため、流域の住民と協力して、宇治川と山科川と高瀬川の水質調査をすることで我々が実態を知り、その結果を学校や自治町内会にフィードバックすることで環境の関心の輪を広げようとするものです。

活動実施スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 2 7 年	4月	水質調査参加者説明会	自治会への声かけ等
	5月	月1回水質調査の実施と結果発信	機材、試薬等準備
	6月	〃	〃
	7月	〃	〃
	8月	〃	〃
	9月	〃	〃
	10月	〃	〃
	11月	〃	〃
	12月	〃	〃
平成 2 8 年	1月	〃	〃
	2月	〃	〃
	3月	年間調査結果のとりまとめと結果発表	

(2) 参加対象者・定員

地域住民。出来るだけ検査地点の近くの住民が望ましい。

(3) 実施内容

宇治川、山科川、高瀬川、濠川の合計10カ所で、午前中に一齐に水を汲み上げ、簡易水質測定キット（パックテスト）を用いて水質測定を行う。その結果をとりまとめ、参加者や希望者や学校や官庁、自治会にお知らせすることで、身近な環境問題に関心を高めて頂く。

(4) 実施日

年間を通して、毎月一日とする。
 *調査協力者について、事前説明会を実施する。

(5) 実施場所

宇治川 4カ所、山科川 3カ所、高瀬川 2カ所、濠川 1カ所



- 宇治川 ④ ⑤ ⑥ ⑦
- 山科川 ⑧ ⑨ ⑩
- 高瀬川 ① ②
- 濠川 ③

(6) 安全対策

水汲みは、原則として橋の上から釣瓶を使いますので、大きな危険はありません。

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

10カ所で水汲みをして頂く個人、自治会、伏見楽舎、区役所などと相談する必要がありますが、一定の目途はついております。

(8) 広報・募集方法

参加、協力者の募集は特段行わず、今日までの繋がりの中から呼び掛けが可能です。

(9) 必要支援内容

この事業は、汲み上げ容器、試験薬剤が必要になる為、諸経費の支援をお願いします。

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

賛同者への呼び掛け、趣旨目的の共通理解の会合、役割分担の決定などはレンジャーの責任で行います。

(11) 昨年度の活動を踏まえての改善点

前例はありません。

(12) 活動を行う上での課題等

- ① どのような水質項目でパックテストを行うのか
- ② 事前の説明会で指導いただく講師をどなたにするべきか
- ③ 収集したデータをどのような形で地域にお知らせするか

(13) その他

4. 5. ヨシ原再生連絡会議（仮称）

(1) 活動目的・山では松の手入れが行き届かず、里では竹藪が荒れ放題、川や湖ではヨシが居場所をなくし年々その面積を狭めております。その要因の一つに、木も竹もヨシも活用の機会が無くなって来た事が挙げられます。大昔、琵琶湖ではヨシの利権が生活の糧になり、権利の主張で諍いが絶えなかったと聞きますし、向島の巨椋池のヨシの利権で大量の軍資金を得ていた武将がいたとも伝えられています。

その様な時代の流れの中で、琵琶湖と淀川水系には、ヨシ焼きを継続しヨシによる文化財の補修や伝統行事の継承、更には、環境問題として取り組んでおられる行政や団体があり、その地道なご努力に敬意を表します。ヨシ原は水の浄化や動植物の住処として大きな役割を果たしており、行政と市民が力を合せ保全せねばなりません。しかし、現実には課題も多く存在しますが、官民が協力して環境問題として再検証して行かねばと考えます。

その為、行政と関係団体に加え一般市民が一堂に集い、課題や進むべき道を探る意見交換会を、仮称「ヨシ原再生連絡会議」と称して開催する事を提案致します。

活動実施スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 2 7 年	4月	関係団体の調査と所管省庁の把握	
	5月		
	6月	文章による呼び掛け	
	7月		
	8月	参加機関を確認の上、具体案の企画	
	9月		
	10月	担当者による打ち合わせ	
	11月		
	12月		
平成 2 8 年	1月		
	2月	ヨシ原再生連絡会議の開催	
	3月		

(2) 参加対象者・定員

滋賀県、京都府、大阪府の地域で、ヨシに関わっておられる総ての関係者。

(3) 実施内容

スケジュールの日程で研究して行く。

(4) 実施日

日程通りに進むよう準備する。

(5) 実施場所

最終のヨシ原再生連絡会議は、上流域の会議室を予定する他は、各地に出向いて意見交換を行う。

(6) 安全対策

特段の心配事項はありません。

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

参加の意思表示のあった行政や団体から、代表が参加する様な形にしたい。

(8) 広報・募集方法

手順を踏んで調査や情報提供により行う予定。

(9) 必要支援内容

遠隔地の団体や参加者が考えられ、準備や話し合いの為、先方への訪問が必要です。その為の交通費などの経費を助成下さることを希望します。

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

呼び掛け人であり、協力者を求めながら事務局の役割を果たします。

(11) 昨年度の活動を踏まえての改善点

新規事業ですので、細心の注意を致します。

(12) 活動を行う上での課題等

未知の方々ばかりですので、置かれている立場に配慮しながら、柔軟に対応します。

(13) その他

4. 6. 隣接学区と連携した防災体験会

(1) 活動目的 ・ ・ 「災害は忘れたころにやってくる」との諺があります。昭和28年の向島宇治川堤防の決壊による大水害以後、堤防の改修が進み大きな水害は発生していません。しかし昨年、中書島近辺で道路が冠水し通行止めの措置がとられました。

さて昨年10月26日、京大防災研究センターで親子の防災体験会を開催しましたが、一般開放の為全体をゆっくり体験できませんでした。今年は夏休み中に、研究センターを開放いただき、隣接している4学区の自治町内会連合会と合同の体験会を開催して、いざという時に備える心の準備をして頂きたい為に開催致します。

4学区 ・ ・ 桃山学区、南浜学区、向島学区、向島南学区

活動実施スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 2 7 年	4月	京都大学との調整	
	5月		
	6月		
	7月	京都大学防災研究センターでの防災体験会	土のうづくりを併催
	8月		
	9月		
	10月		
	11月		
	12月		
平成 2 8 年	1月		
	2月		
	3月		

(2) 参加対象者・定員 4学区の自主防災会および住民

(3) 実施内容

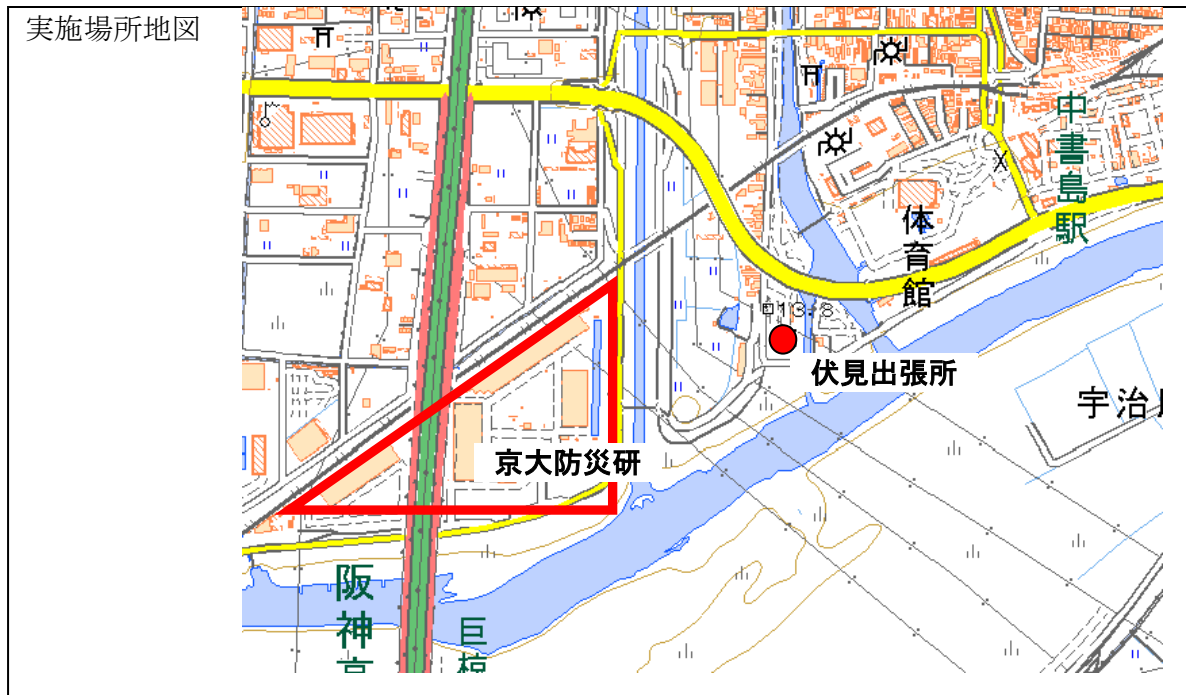
防災センターの4カ所の施設の体験と土のうづくりの体験

(4) 実施日

平成27年7月か8月の夏休み中で、京都大学防災研究センターの都合に合わせる

(5) 実施場所

京都大学防災研究センター内



(6) 安全対策

室内であり、指導者が常駐し、経験しているメンバーが見守る。

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

各自治会から数名と伏見楽舎の経験者10名が監視役として参加。

(8) 広報・募集方法

今回は4自治会に絞っての呼びかけになります。

(9) 必要支援内容

施設の体験の他、土のうづくりも体験頂く為、講師と資材と運送費が必要になり、助成をお願い致します。

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

自治会への呼びかけ、大学との折衝、講師の手配、伏見楽舎の協力依頼など。

(11) 昨年度の活動を踏まえての改善点

昨年は親子での参加で、一般開放の為、十分な体験が出来ない子供が有ったので、今年は単独で夏休みの平日に開催をお願いしたい。

(12) 活動を行う上での課題等

大学側の対応が得やすい様、平日に開催して全コースを体験頂きたい。

(13) その他